

課題名：日本なし樹体ジョイント園における白紋羽病の再発防止対策の検討

要約：管内で日本なし樹体ジョイント栽培を行っており、欠木が発生している園地について、白紋羽病を発生させない補植方法を令和4年度から検討している。部分根域制限と土壤消毒(フロンサイドSC及びフジワン粒剤)または客土(水田土)による処理を行う試験区を令和4年に設置した。今年度は補植後の白紋羽病の感染状況を簡易診断法(枝挿入法)により確認したが、いずれの処理区でも発症・感染は確認されなかった。

担当者：○技師・西川侑宏、担当係長・山近龍浩、専門幹兼係長・木下倫信、専門幹兼係長・中村武郎、担当係長・深谷俊英、主幹・高橋博久、主幹・池浦毅

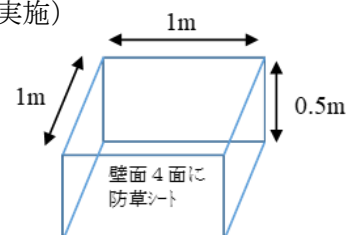
1 課題設定の背景と目的

日本なし樹体ジョイント栽培園において、改植後白紋羽病による枯死により欠木となった場合、補植を行っているが、補植苗も再度白紋羽病に感染してしまう事例が多く見られ、栽培意欲の低下につながっている。そこで、再発させない補植方法を検討する。今年度については、試験区設置後の白紋羽病の有病の調査を行う。

2 調査研究の内容

- (1)実施時期 令和4年3月～令和6年12月
(2)実施地区 南信州管内で樹体ジョイント栽培を導入し、欠木が発生している生産者
(3)耕種概要 栽培方法:樹体ジョイント栽培(R元年定植、R4年3月ジョイント部接ぎ木実施)
品種:「幸水」

- (4)調査研究方法 部分根域制限と土壤消毒もしくは客土による処理効果を確認する。
ア 部分根域制限の設置
補植前に、1樹当たり深さ50cm、幅・長さ1mの穴を掘り上げ、防草シートを二重に折り重ね、穴の壁面に添って設置。



イ 試験区(令和4年3月31日設置)

Table with 6 columns: 試験区, 土壤の種類, 部分根域制限, 薬剤処理, 試験区, 備考. It lists experimental plots 1 through 4, detailing soil types (畑作土 or 客土), root zone restrictions (有 or 無), and treatments (フロンサイドSC and フジワン粒剤).

ウ 調査内容

白紋羽病発生調査:6月21日に枝挿入法を実施。

- (5)調査研究依頼先 飯田市上郷黒田 北原伊義氏ほ場(標高560m)
(6)協力機関 下伊那園芸農業協同組合

3 結果の概要及び考察

試験区ごとの白紋羽病の感染状況を調査するため、枝挿入法を6月21日に実施し、7月11日に抜き取りを行ったところ、昨年に続き、白紋羽病の感染は確認されなかった(表1)。

予備調査として、ほ場内の試験区設置以外の場所で枝挿入法を9月27日に実施し、11月9日に抜取調査を行ったところ、白紋羽病の感染は確認されなかった。また、白紋羽病のホクシマメナシへの感染状況を確認するため、予備試験区のポリポットのマメナシを掘り上げ、根部の白紋羽病菌の感染を調査したところ、感染は視認されなかった。

これらの結果は、試験区設置以前には場内で実施したフロンサイドSCの灌注処理の残効によるものであると考えられる。このため、白紋羽病の早期発見・早期防除により、現状としては効果的に白紋羽病の発病を抑えられていると言える。しかし、フロンサイドSCの残効が2年程度と言われていることから、今後も定期的に枝挿入法を行い、白紋羽病の感染状況を確認し、防除を行う必要がある。

表1 各試験区における枝挿入法による白紋羽病感染の状況

試験区	予備試験A	予備試験B	試験区1	試験区2	試験区3	試験区4
感染の有無	無	無	無	無	無	無

4 情報提供方法

日本なし産地再生プロジェクト総会

5 関連事業等

日本なし産地再生プロジェクト